

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4675	事業名	建築総務事業			
所属名	建築局公共建築部住宅計画課	評価責任者	住宅計画課長 山下 賢一			
		作成責任者	平江 柚衣	ダイヤルイン	052-954-6991	
政策名	建築行政の適切な執行と円滑な運営		施策名	建築行政の適切な執行と円滑な運営		
事業目的	建築行政の適切な執行と円滑な運営					
根拠法令・計画等	知事マニフェスト					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	63.0人(0人)	64.0人(0人)	64.0人(0人)	61.0人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	4.0人(0人)	4.0人(0人)	4.0人(0人)	4.0人(0人)
	経費	人件費(a)	631,321千円	617,950千円	633,919千円	608,340千円
		事業費(b)	34,334千円	739,821千円	584,322千円	122,651千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	665,655千円	1,357,771千円	1,218,241千円	730,991千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		100,941千円	109,981千円	0千円	0千円
経費のうち、一般財源等		1,139,551千円	1,247,701千円	1,142,090千円	730,730千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	建築行政の適切な執行と円滑な運営を行う。 1 地方関係団体職員共済組合負担金:32,993千円 2 管理事務費:1,341千円					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	県民あたりのコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	—	
				6年度	—	(見込)
		5年度	—	92円(実績)		
		2		最終目標		
				6年度		(見込)
		5年度		(実績)		
		3		最終目標		
				6年度		(見込)
		5年度		(実績)		
		4		最終目標		
				6年度		(見込)
		5年度		(実績)		
		5		最終目標		
				6年度		(見込)
5年度		(実績)				
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	ー:評価なし(判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:管理事業全体の達成度を評価するのに最も適した指標であるため)					
コスト指標の増減分析	5年度の県民あたりのコストは、人件費が増加したことにより、4年度の79円と比べ13円増加した。					
課題	なし					
今後の方向性	コスト縮減や事業内容の精査など、引き続き、予算の効果的・効率的な執行に努める。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4680	事業名	建築指導事業			
所属名	建築局建築指導課	評価責任者	建築指導課長 山崎 宏			
		作成責任者	吉田 圭汰	ダイヤルイン	052-954-6585	
政策名	建築行政の適正な執行と円滑な運営		施策名	建築物等の安全の確保と推進		
事業目的	建築基準法等関係法令の適正な執行と実効性を確保し、建築物の安全性と良好な市街地の形成を図る					
根拠法令・計画等	建築基準法、建築士法、長期優良住宅の普及の促進に関する法律、都市の低炭素化の促進に関する法律、宅地造成等規制法、都市計画法等					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	84.20人 (43人)	85.20人 (43人)	85.20人 (43人)	85.20人 (43人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	16人 (8人)	15人 (8人)	15人 (8人)	15人 (8人)
	経費	人件費(a)	889,256 千円	859,915 千円	831,228 千円	849,272 千円
		事業費(b)	44,453 千円	44,324 千円	40,569 千円	35,435 千円
		公債費(c)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
		計(a)+(b)+(c)	933,709 千円	904,239 千円	871,797 千円	884,707 千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		26,986 千円	28,178 千円	121,977 千円	127,645 千円
	経費のうち、一般財源等		46,278 千円	872,320 千円	746,562 千円	753,809 千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	建築物等の安全の確保と推進のために、建築指導事業を行う。 1 建築基準指導費:39,593千円(建築指導推進費15,335千円、既存建築物の安全安心推進事業15,920千円、建築物省エネ化推進事業費5,956千円、あいちエコフレンドリー住宅ガイドブック普及啓発事業費2,382千円) 2 長期優良住宅推進指導費:1,819千円 3 低炭素建築物推進指導費:323千円 4 宅地造成及び開発行為指導費:852千円 5 建築動態統計調査費:1,098千円 6 建設リサイクル推進費:768千円					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	全建築物の完了検査実施率(完了検査件数/確認件数)	最終目標	-	
				6年度	100%	98% (見込)
				5年度	100%	97% (実績)
		2	特定建築物の定期報告率(報告件数/対象件数) ※報告は3年1度	最終目標	-	
				6年度	90%	90% (見込)
				5年度	90%	78% (実績)
		3	宅地造成・開発許可の完了検査率(完了検査件数/許可件数)	最終目標	-	
				6年度	85%	85% (見込)
				5年度	85%	100% (実績)
		4	県民あたりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	117円 (実績)
		5		最終目標	-	
				6年度		(見込)
5年度				(実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり(判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:事業目的の達成のために最も重要であるため) ・管理事業全体としては、相当程度事業目的を達成できたと評価する。 ・建築基準指導費について、完了検査実施率については、建築確認検査の実効性の確保、建築施行時における適法性の確保として完了検査の徹底のため、建築開発等指導員との合同パトロールや相談窓口での普及啓発を実施したこととおおよそ目標を達成することができた。また、特定建築物の定期報告については、ホームページの整備、作成した定期報告の案内パンフレット等を活用して関係団体、所有者等への普及啓発等の指導を行ったが、目標を達成することはできなかった。 ・宅地造成・開発許可事業については、計画的なパトロール等を行ったことによって、目標を上回り完了検査率を達成することができた。					
コスト指標の増減分析	5年度の県民あたりコストは、退職手当引当金繰入額が増加したこと等により、4年度114円に比べ3円増加した。					
課題	・建築物の完了検査実施率は、実受検の建築物の要因を調査し、対象物件を絞って啓発活動を行うなど改善が必要である。 ・特定建築物の定期報告率は、建築基準法の改正により対象建築物が拡大したことから、新たな対象建築物の所有者等への周知を適切に行っていく必要がある。					
今後の方向性	目標の達成に向けて、普及啓発等(パトロール、所有者・関係団体・資格者への周知)を継続的に行っていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4690	事業名	住宅対策事業				
所属名	建築局公共建築部住宅計画課	評価責任者	住宅計画課長 山下 賢一				
		作成責任者	平江 柚衣	ダイヤルイン	052-954-6991		
政策名	良好な住宅や安全な建築物の確保		施策名	公的賃貸住宅等の供給促進や建築物の防災対策の推進			
事業目的	「愛知県住生活基本計画2030」に基づき、住まい・まちづくり施策を総合的・計画的に推進する。						
根拠法令・計画等	住生活基本法、建築物の耐震改修の促進に関する法律、愛知県住生活基本計画2030 等						
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)		
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	30.10人 (0人)	28.10人 (0人)	28.10人 (0人)	30.20人 (0人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	2人 (0人)	2人 (0人)	2人 (0人)	2人 (0人)	
	経費	人件費(a)	303,161千円	272,882千円	264,460千円	284,512千円	
		事業費(b)	857,649千円	1,305,627千円	1,005,288千円	740,749千円	
		公債費(c)	752,949千円	755,785千円	758,050千円	758,249千円	
		計(a)+(b)+(c)	1,913,759千円	2,334,294千円	2,027,798千円	1,783,510千円	
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		3,440千円	3,370千円	3,248千円	4,163千円		
経費のうち、一般財源等		844,330千円	2,322,192千円	1,683,161千円	1,573,714千円		
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>高齢者の居住の安定確保、民間住宅・建築物の地震対策、良好な市街地の整備に関する事業を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 高齢者等居住安定推進事業費:2,276千円 (サービス付高齢者向け住宅登録戸数等:700戸/年) 民間住宅・建築物耐震診断費補助金:77,421千円 (民間住宅および建築物の耐震診断補助対象戸数:11,116戸・棟) 民間住宅耐震改修費補助金:213,015千円 (民間住宅の耐震改修補助対象戸数:646戸) 市街地再開発事業費補助金:287,300千円 (市街地再開発事業等対象区域:39,380㎡) その他事業費:277,637千円 						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込		
		1	サービス付き高齢者向け住宅登録戸数等 ※前年度実績+700戸	最終目標	12年度:7,000戸		
				6年度	2,271戸	(見込)	
				5年度	1,791戸	1,571戸 (実績)	
		2	耐震化された住宅の戸数の割合	最終目標	7年度:95%		
				6年度	95%	93% (見込)	
				5年度	95%	92% (実績)	
		3	事業対象面積あたりコスト (対象事業費補助金/事業対象面積)	最終目標	-		
				6年度	-	-	
				5年度	-	16千円/㎡ (実績)	
	4	事業対象戸・棟当たりコスト (対象事業費補助金/事業対象戸・棟数)	最終目標	-			
			6年度	-	-		
			5年度	-	213千円/戸・棟 (実績)		
	5		最終目標				
			6年度				
5年度							
外部要因等	なし						
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり (判断の理由) ◎主要な指標:2(理由:住宅の耐震化は、住宅対策事業中、特に県民の生命に直結するものであるため。) ・主要な指標及びその他の指標ともに目標に近い実績であったため、相当程度進展ありとした。						
コスト指標の増減分析	5年度の事業対象面積あたりコストは、市街地再開発事業費の増により、4年度の13千円/㎡と比べ3千円/㎡増加した。 5年度の事業対象戸・棟当たりコストは、事業対象戸・棟数の増により、4年度の231千円/戸・棟と比べ18千円/戸・棟減少した。						
課題	民間住宅・建築物耐震診断費補助金や民間住宅耐震改修費補助金は、市町村と協調する補助制度であるため、市町村と連携して着実に取り組む必要がある。						
今後の方向性	市町村との連携により、住宅の耐震化を促進し、安全・安心な住まいまちづくりに取り組むとともに、引き続き良好な居住環境の形成にも努めていく。						

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4700	事業名	公共住宅事業				
所属名	建築局公共建築部	評価責任者	県営住宅管理室長 松本 光功				
	公営住宅課県営住宅管理室	作成責任者	岩槻 壮哉	ダイヤルイン	052-954-6579		
政策名	良好な賃貸住宅の確保		施策名	公共住宅の供給促進			
事業目的	公共住宅の供給を促進することにより、県民の住生活の安定向上を図る。						
根拠法令・計画等	地方住宅供給公社法 県営住宅管理事業特別会計条例 等						
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)		
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	8.40人 (0人)	8.40人 (0人)	8.40人 (0人)	7.30人 (0人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	経費	人件費(a)	82,115 千円	79,337 千円	84,505 千円	78,293 千円	
		事業費(b)	1,653,698 千円	1,130,969 千円	1,124,338 千円	1,195,156 千円	
		公債費(c)	205,646 千円	209,489 千円	209,489 千円	213,632 千円	
		計(a)+(b)+(c)	1,941,459 千円	1,419,795 千円	1,418,332 千円	1,487,080 千円	
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	951 千円	942 千円	942 千円	
	経費のうち、一般財源等		1,941,959 千円	1,418,844 千円	720,057 千円	△8,702 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	公共住宅の供給を促進することにより、県民の住生活の安定向上を図る。 1 愛知県住宅供給公社賃貸住宅建設資金利子補給補助金:56,331千円(全額補助金) 2 県営住宅管理事業特別会計繰出金:1,597,367千円(全額繰出金)						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込		
		1	賃貸住宅事業の事業利益率(%)	最終目標	10年度 毎年度黒字化、事業利益率10%		
				6年度	6.5%	6.5%	(見込)
				5年度	2.0%	9.4%	(実績)
		2	発注者支援業務の契約件数(件)	最終目標	10年度 毎年度10件		
				6年度	10件	10件	(見込)
				5年度	10件	23件	(実績)
		3	各年度末の借入金残高(億円)	最終目標	10年度 借入金残高261億円		
				6年度	273億円	273億円	(見込)
				5年度	282億円	277億円	(実績)
		4	公社賃貸住宅の家賃徴収率(%)	最終目標	10年度 家賃徴収率98.5%の維持		
				6年度	98.5%	98.5%	(見込)
				5年度	98.5%	98.6%	(実績)
		5	公社が管理する住宅の管理戸数当たりコスト(円) (PL経常費用/管理戸数)	最終目標	-		
				6年度	-	-	(見込)
5年度	-			20,028円	(実績)		
外部要因等	なし						
目的の達成に関する評価	B: 目標達成 (判断の理由) ◎主要な指標:3(理由:公社全体の改善を示す指標のため。) ・公社の年度末借入金残高は目標を上回り、着実に削減が進んでいる。 ・公社賃貸住宅事業の事業利益率は目標を上回り、成果をあげている。						
コスト指標の増減分析	5年度の公社が管理する住宅の管理戸数当たりコストは、県営住宅管理事業特別会計繰出金の決算額の変動等に伴い、PL経常費用が減少したことにより、4年度実績値20,753円に比べ725円減少した。						
課題	依然として借入金残高が多いことから、経営の安定化のために削減を図る必要がある。						
今後の方向性	公社賃貸住宅事業の事業利益率を維持するとともに、公社の借入金残高の削減を進め、公社の経営安定化を図る。						

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4710	事業名	公営住宅事業			
所属名	建築局公共建築部公営住宅課	評価責任者	公営住宅課長 竹内 政宣			
		作成責任者	西村 美祝	ダイヤルイン	052-954-6571	
政策名	良好な賃貸住宅の確保		施策名	公営住宅の整備		
事業目的	住宅に困窮する低所得者層や高齢者等に対して、健康で文化的な生活を営むに足りる普通県営住宅を低廉な家賃で供給する。					
根拠法令・計画等	公営住宅法					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	22.30人(0人)	23.30人(0人)	23.30人(0人)	24.30人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	1人(0人)	1人(0人)	1人(0人)	1人(0人)
	経費	人件費(a)	224,038千円	225,688千円	219,389千円	237,867千円
		事業費(b)	6,690,954千円	6,824,060千円	8,904,808千円	7,903,110千円
		公債費(c)	53,388千円	54,074千円	54,067千円	54,537千円
		計(a)+(b)+(c)	6,968,380千円	7,103,822千円	9,178,264千円	8,195,514千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円
	経費のうち、一般財源等		3,531,848千円	3,890,027千円	228,514千円	264,158千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>公営住宅法に基づく普通県営住宅の建設・改善を行う。</p> <p>1 公営住宅建設費 (1)公共事業(普通県営住宅建設費:5,022,339千円、既設県営住宅改善事業費:1,412,894千円) (2)単独事業(普通県営住宅建設費: 208,153千円、既設県営住宅改善事業費: 39,564千円) (3)住宅建設事業指導監督費:8,004千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)		目標年度	目標値	実績値・見込
		1	県営住宅建替戸数	最終目標	350戸/年	
				6年度	350戸/年	359戸/年 (見込)
				5年度	350戸/年	277戸/年 (実績)
		2	県営住宅のバリアフリー化率	最終目標	61.3%	
				6年度	61.3%	60.8% (見込)
				5年度	60.2%	59.7% (実績)
		3	資産当たりコスト (経常費用/事業用資産・インフラ資産)	最終目標	—	
				6年度	—	— (見込)
				5年度	—	17.6% (実績)
	4		最終目標			
			6年度		(見込)	
			5年度		(実績)	
	5		最終目標			
			6年度		(見込)	
5年度				(実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	C: 相当程度進展あり (判断の理由) ◎主な指標:2(理由:管理事業を構成する主要な2事業双方に関連する指標のため。) ・バリアフリー化率については、ほぼ目標を達成し、管理事業として相当程度進展があった。 ・普通県営住宅建設戸数については、建替スケジュール等により目標には達していないが、概ね計画どおり進捗している。 ・他に既設県営住宅改善事業費において、長寿命化改善工事を実施した。					
コスト指標の増減分析	5年度の資産当たりコストは、5年度着手住宅に要した事業費等が前年度より減少したことにより、4年度の24.6%に比べ7.0%減少した。					
課題	物価の動向が不明であるため、事業実施への影響が懸念される。					
今後の方向性	主要な指標は概ね目標に近い実績となったため、原則現状どおり事業を実施していく。ただし、物価の上昇を考慮し、コスト削減に努め、事業実施に支障をきたさないように配慮する。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	9240	事業名	県営住宅管理運営事業			
所属名	建築局公共建築部	評価責任者	県営住宅管理室長 松本 光功			
	公営住宅課県営住宅管理室	作成責任者	岩槻 壮哉	ダイヤルイン	052-954-6579	
政策名	良好な賃貸住宅の確保		施策名	公営住宅等の適正かつ合理的な管理運営		
事業目的	既存の県営住宅の適正かつ合理的な管理運営により、県営住宅入居者の住生活の安定向上を図る。					
根拠法令・計画等	公営住宅法、特定優良賃貸住宅の供給の促進に関する法律等					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	13人(0人)	13人(0人)	13人(0人)	13人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	2人(0人)	2人(0人)	2人(0人)	2人(0人)
	経費	人件費(a)	107,153 千円	102,468 千円	103,405 千円	98,519 千円
		事業費(b)	10,664,760 千円	10,349,494 千円	10,065,080 千円	9,732,259 千円
		公債費(c)	5,616,919 千円	5,691,525 千円	5,638,286 千円	6,347,782 千円
		計(a)+(b)+(c)	16,388,832 千円	16,143,487 千円	15,806,771 千円	16,178,560 千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		13,903,467 千円	14,026,402 千円	14,019,091 千円	13,947,701 千円	
経費のうち、一般財源等		1,597,367 千円	1,074,907 千円	1,074,907 千円	1,149,278 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	既存の県営住宅の適正かつ合理的な管理運営により、県営住宅入居者の住生活の安定向上を図る。 1 県営住宅管理委託費:8,156,970千円(県営住宅管理委託費8,156,970千円) 2 県営住宅の所在する43市町村に対する交付金:2,078,465千円(県営住宅所在市町村交付金2,078,465千円) 3 その他事業費:429,325千円					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	県営住宅の空家率(%)	最終目標	直近4年間(前年を除く)で最小割合	
				6年度	20.2%	20.2% (見込)
				5年度	19.5%	23.0% (実績)
				最終目標	直近4年間(前年を除く)で最大割合	
				6年度	98.24%	98.24% (見込)
		2	普通県営住宅使用料の徴収率(%) (※過年度分を除く)	5年度	98.20%	98.19% (実績)
				最終目標	直近4年間(前年を除く)で最大割合	
		3	特別県営住宅使用料の徴収率(%) (※過年度分を除く)	6年度	98.75%	98.75% (見込)
				5年度	98.65%	98.65% (実績)
				最終目標	直近4年間(前年を除く)で最大割合	
		4	駐車場使用料の徴収率(%) (※過年度分を除く)	6年度	98.48%	98.48% (見込)
				5年度	98.48%	98.38% (実績)
				最終目標	直近4年間(前年を除く)で最大割合	
		5	県営住宅の管理戸数当たりコスト(円) (PL経常費用／管理戸数)	最終目標	-	
6年度	-			- (見込)		
5年度	-			380,221円 (実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり(判断の理由) ◎主要な指標:2(理由:特別会計の財源に係る指標であるため。) ・普通県営住宅使用料、特別県営住宅使用料及び駐車場使用料については、概ね目標に近い徴収率となり、管理事業全体として相当程度進展した。					
コスト指標の増減分析	5年度の県営住宅の管理戸数当たりコストは、管理戸数が減少しているものの、修繕にかかる費用の増等に伴い、4年度実績値376,804円に比べて3,417円増加した。					
課題	建物の老朽化が進行する中で適切な維持管理を実施するとともに、既存ストックの有効活用を図っていくことが課題である。また、住宅使用料及び駐車場使用料に係る未収金の回収を進めていくことも必要である。					
今後の方向性	使用料の徴収率向上に努めていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。